

「地域間連携によるピーストーク8.9長崎⇄大分」

(長崎大分地域連携による対話で核兵器禁止条約の詳しい意味と被爆や戦争の実相の相互理解)

実施者：ピース・バイ・ピース・ナガサキ
peacebypeacenagasaki@gmail.com

◎目的

今日の国際的な紛争、戦闘行為や国際情勢の報道において、国家による核兵器の開発・実験・製造・取得・保有・貯蔵や使用の威嚇に関する言動が毎日のように報道されている。国内においても、核兵器の共有などを唱える政治家の報道も散見される。

本事業は、今一度核廃絶の原点を長崎以外の地域の中学生に8月9日に対話型でわかりやすく伝え、「長崎を最後の被爆地に」という長崎の思いの理解と共感を醸成することを目的とする。8月9日以降、中学生との対話による核兵器廃絶の必要性に関する情報をわかりやすく冊子に取りまとめて、関係者に広く配布し、長崎以外の地域における核廃絶への理解の広がりを目的とする。

◎こんな人に届けたい

8月9日別府市立朝日中学校の生徒、教職員、保護者。長崎で平和活動を行っている若者、被爆者。長崎市、別府市の平和や文教関連施設を訪れる市民等



◎実績

①「ピーストーク8.9長崎⇄大分」参加者

大分(朝日中学校会場) 計425人

別府市立朝日中 414人(1年132人、2年140人、3年142人)、

長崎(出島交流会館会場) 計8人

出演者:三瀬清一郎さん(長崎の被爆者)、中村楓さん(ナガサキ・ユース代表团)、羽山嵩裕さん(高校生平和大使)、平田倫久さん(技術ボランティア)、金村公一(ピースバイピースナガサキシニアフェロー)、
松尾美智子(ピースバイピースナガサキ事務局)、前田真里(ピースバイピースナガサキ代表)

② 取材11件

- ・テレビ8社(大分県テレビ全5社:NHK、OBS(TBS 系列)、OAB(テレビ朝日系列)、TOS(フジテレビ系列、日本テレビ系列クロスネット)、CTB(ケーブルテレビ局)
- ・新聞3社:大分合同新聞、読売新聞大分県版、今日新聞)。
*各テレビ局6社(NHK.ANN テレビ朝日、FNN フジテレビ、NNN 日本テレビ、NEWS DIG TBS 系列、CTB ケーブルテレビ局)は、番組の放送のほかオンラインでの動画、記事や SNS でも発信した。
- ・新聞2社(読売新聞長崎県版、毎日新聞長崎県版)
- ・フリージャーナリスト1人(福岡県より佐々木亮:元朝日新聞記者「ナガサキノート 若手記者が聞く被爆者の物語」発案者)

③ 雑誌記事掲載など 計2件

別府市立朝日中学校 学校だより3回掲載 2022年8月号、9月号、2023年3月
会報:公益社団法人大分県人権部落差別解消教育研究協議会 発行「じんけん」2022年12月号

◎事業の内容

① 教材準備等(令和4年7月1日~7月20日)

8月9日の長崎と大分を結んだ平和学習の構成、進め方の検討。日程・時間調整及び、朝日中学校の事前学習、当日発表内容、長崎からの出演者調整等を行いながら、被爆者三瀬清一郎さんによる中学生に向けた被爆講話の収録、田上富久長崎市長のビデオメッセージ収録、編集等朝日中学校の生徒が事前学習を行うための教材作成、

生徒からの発表準備などを行なった。

② 事前学習(令和4年7月20日)

制作した被爆者三瀬清一郎さんの講話映像を朝日中学校全生徒が視聴し、自由記述で感想や意見、質問などを書いてもらい、8月9日に向けた事前学習を行なった。



③ 8月9日のピーストーク準備(令和4年7月20日～8月9日)

事前学習の際に生徒が書いた記述文のテキスト化を行うとともに、三瀬清一郎さんにもフィードバックしてピーストークでの対話の進め方について準備を進めた。

当日に向けて出演者間での発表内容や進行方向について協議、準備を進めた。長崎の会場を出島交流会館に確保し、会場設営の検討、通信環境やバックアップ通信等の技術的検討を行なった。

④ ピーストーク8.9長崎⇔大分実施(令和4年8月9日 9:30～11:15)

別府市立朝日中学校*1と長崎をオンラインで結び、長崎からの発信だけでなく、朝日中学校からも事前にアンケート集計や歴史調査を行なった結果を発表する双方向対話型の平和学習を行なった。最後に11時2分の平和祈念式典を視聴しながら、リアルタイムで黙祷、平和宣言の聴講を行なった。

長崎からは、被爆者三瀬清一郎さん、高校生平和大使羽山嵩裕さん、ナガサキ・ユース代表団中村楓さんらが発表や対話を行なった。全体の対話進行は、Peace by Peace NAGASAKI の前田真里代表が行なった。

(*1大分では通例8月6日が登校日だが、本事業に賛同された朝日中学校の古田校長、同校保護者会の松本さん他教職員関係者の尽力により、朝日中学校の登校日は8

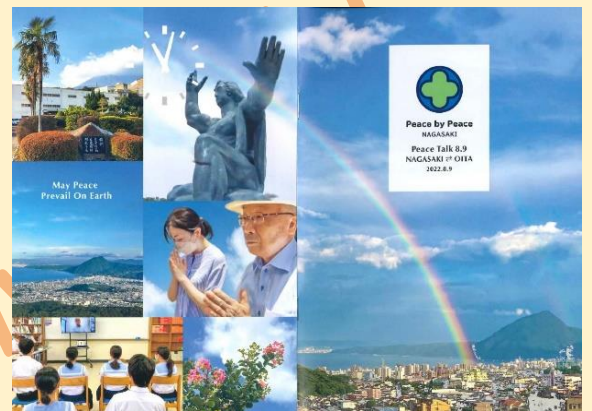
月9日に変更された)

⑤ 発表資料の整理、調査・分析、記録写真整理等冊子制作に向けた準備(令和4年9月～12月)

ピーストークの内容を軸に、冊子による情報発信に向けた素材の作成、調査・分析などを行う。冊子の構成、掲載記事内容の検討、ピーストーク出演者などに原稿依頼等を行う。また本事業の実施において撮影した写真の整理分類と冊子に掲載する写真選択など、冊子制作の準備を行なった。

⑥ 小冊子(A5版12ページカラー印刷)作成(令和5年1月～3月)

小冊子の構成に基づく、原稿の作成、編集作業。写真の加工及び、表紙・裏表紙のデザイン・レイアウトと写真の加工、合成。印刷会社との詳細な打ち合わせに基づく小冊子の版下作成、校正、色構成を行い、A5版12ページ構成の小冊子を地元の印刷会社の協力も得て、1,500部を印刷。



⑦ 汎用パッケージ化の準備(令和5年2～3月)

被爆者三瀬清一郎さんの被爆体験講話映像を再編集し、朝日中学校以外の教育機関その他で平和学習に利用できる映像を作成した。別府市教育委員会において、市内の学校教育で活用する準備も進んでいる。長崎市内の公立中学校41校、国立1校、私立校へも小冊子と配布し、今後、長崎市教育委員会より三瀬清一郎さんの被爆講話映像の使用を進める予定。長崎市平和推進課(原爆資料館、長崎市立中央図書館等)へ合わせて300部寄贈。



⑧ 小冊子の配布先への発送(令和5年3月15日～31日)

完成した小冊子の配布予定先への発送準備と発送。

◎事業の成果等

前項の「事業の内容」に時系列を追いながら詳細に記述したとおりであるが、事業の遂行を通して下記のような成果を得ることができたとまとめられる。

① 地域間の対話と相互理解

長崎の8月9日の平和祈念式典と連動する形で他地域の中学生の平和学習を「長崎を最後の被爆地に」という長崎の願いの意味を深く知ってもらうものにできた。

② 若者の連携(中・高・大・社)の萌芽

朝日中学校生徒との平和学習を通して、高校生平和大使、ナガサキ・ユース代表団の大学生と直接に交流して平和を担う若者の連携を意識づけることができた。また、冊子作成において長崎出身の社会人による新たな地域活動と平和のつながりを紹介することもできた。また、今回のピーストークの準備にあたり、市内の大学生にも協力してもらうなど、若い力の連携があった。

③ 配布用冊子の制作

冊子は、事業計画段階では A5版8ページを1,000部印刷する予定であったが、冊子に盛り込む内容が多岐にわたるため、A5版12ページに増ページし、配布部数も印刷会社の協力も得て1,500部に増刷することができた。

④ パッケージ化に向けた映像再編集

朝日中学校生徒向けに制作した三瀬清一郎さんの被爆体験講話映像を長く継承し、全国各地で活用できるように一部再編集して汎用化し、平和学習のパッケージ化を実現。また、その活用の第一歩として別府市教育委員会での活用が実現する見込みとなった。

◎今後の取組み

① パッケージ化された教材を利用した平和学習の機会作り。

広く伝えるために、冊子の内容の一部を音声データ化する予定である。

② 冊子の配置・配布

長崎市内、別府市内の文教施設、平和関連施設、公共施設)、配布予定。

まず、冊子完成後2023年3月18日長崎市茂里町ココウォークで実施された長崎市井戸端パーティー「ありがとう」から平和を伝えよう！ハガキ・新聞作りワークショップ（11～15時 参加者50人以上）に参加して小冊子を展示、配布。参加者や企業の方に読んでいただき交流の機会を持ちました。

③ 今後 Web ページ上での教材映像の公開、冊子の音声情報の公開

出張公演会、マルシェなど広く市民や若者との文化イベントや交流の場で、「平和の文化」を継続的に発信予定。

④ 平和活動を行う人や団体との連携

今後も高校生、大学生、社会人などさまざまな立場で平和活動を行う人や団体などとの連携を行う予定である。

